あっという間に 8 月も過ぎてしまいました。私の留学も、残りの期間はあと約 3 か月になっています。いまだに苦戦することばかりですが、帰国日をはっきりと意識するようになってから、考え直すことが増えました。

今回は、授業、勉強における価値観の相違について話していきたいと思います。きっかけは音楽の授業でした。音楽の授業では、グループを組んでショーケースの発表に向けて曲を練習します。もともと、この学校の授業の方針として、基本的な数学や英語などの授業以外に、自分で科目を選び、設定します。それぞれの生徒が、それぞれのタイムテーブルを持っているのです。日本では、クラスごとに時間割が決まっていて同じ集団で授業を受けていたので、初めての経験でした。

また、学期が変わる直前には、担当の先生と次の学期に設定する科目について話し合います。自分の、興味や、進路、将来の道を踏まえて設定する人が多いでしょう。ここで、私が感じたのは、個々が潜在的に持っている能力や興味を積極的に伸ばそうとする学習意図です。私は、音楽の授業を選択しました。何が楽器に強いわけではなかったのですが、音楽を聴くのが好きだから、という単純な考えと興味が理由でした。先述した、ショーケースに向けての練習の際、グループごとに曲と担当の楽器が決まり、楽譜が用意されたとき、あるグループが練習もなく曲をほぼ完ぺきに弾いていたのをみて、感動したと同時に、自主性を重要視する教育体制を実感できたと思います。それぞれ、得意とする楽器があって、培ってきた技術や知識をいかんなく発揮している人たちを目の当たりにして、すごくかっこいいと感じました。もちろん、今までに体験したことなくても、興味がある楽器を選択することもできます。そのような生徒のために個別のレッスンを受けられる体制もありました。初めてクラリネットに挑戦するという子もいました。日本の授業で、ひとりひとりが違う役割を担って、一つの曲の演奏を完成させるなんて経験をしたことがなかったので、はじめて心から音楽の授業を楽しめたなと感じます。それぞれの特異を活かした、最高の演奏を奏でる、なにより音楽を楽しんでいる人たちをみて、個々の能力に視点を当ててそれを伸ばす、という教育方法の良い面を実際に見て、体感できてよかったなと思います。必ずしも、日本の学校もそれをまねるべきだ、変えろ、ということを伝えたいわけじゃありませんが、見習える部分はあるのではないかなと思います。技術の発展により、より一層世界が近くなった今、様々な場所の良い面を取り込んで、新しい変化を生み出していく考え方も、重要になってくるのではないでしょうか。

白鷗高校 15 期生 次世代リーダー育成道場第 11 期生 N・F